

安倍政権下、進む軍産複合体 ～もり・かけ・スパコン疑惑の中で～

講師 ^{いそこ}望月衣塑子さん (東京新聞社会部記者)



Isoko Mochizuki プロフィール

1975年、東京都生まれ。東京新聞社会部記者。慶応義塾大学法学部卒業後、東京・中日新聞に入社。千葉、神奈川、埼玉の各県警、東京地検持捜部などで事件を中心に取材する。04年日本歯科医師連盟のヤミ献金疑惑の一連の事実をスクープし、自民党と医療業界の利権構造を暴く。東京地裁・高裁での裁判を担当し、その後、経済部記者、社会部遊軍記者として防衛省の武器輸出、軍学共同などをテーマに取材。17年4月以降は、森友学園・加計学園問題の取材チームの一員となり、取材をしながら菅官房長官会見で質問し続けている。

著書 新刊「THE村田 独裁者・安倍晋三」(ベストセラーズ)「新聞記者」(角川新書)「武器輸出と日本企業」(角川新書)「武器輸出 大国ニッポンでいいのか」(あけび書房)他

「東京新聞の望月です」と名のり、森友、加計問題で菅官房長官に執拗に食い下がった記者会見の場面ははまだ記憶に新しいのではないのでしょうか。望月さんは、心無い人々からいわれのない誹謗、中傷のバッシングを受けながらも、原発、貧困、差別、性暴力などの社会問題に意欲的に取り組み、その姿勢は多くの支持と共感を得ています。

今回の講演は第2次安倍内閣が「武器輸出三原則」を解禁し、政府主導で武器輸出を推進してゆくことへの危機感から、関係省庁、企業、研究機関へ果敢に取材活動を試み、軍産複合体という得体のしれない世界の真相の解明追究がテーマとなっています。

いま、安倍内閣は、東アジアの危機を殊更に煽り森友、加計、スパコン疑惑から国民の目をそらし、年々、防衛予算を増大させながら集団的自衛権を組み込んだ安保体制の強化拡充を図り、戦後のこれまでの歩みとは異質な道を歩み始めています。

この機会にあらためて軍産複合体とはどのようなものか、ジャーナリズムとは何か。

そしてマスコミの報道に安易に同調したり、鵜呑みにしやすい私達の姿勢について考えてみたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしています。



- 司会・吉田千秋
哲学者・元岐阜大学教授
- 挨拶・福田静夫
哲学者・日本福祉大学名誉教授

2018年4月28日(土)

14:00～17:00(開場13:30)
「ウインクあいち」5階小ホール

(名古屋駅前・愛知県産業労働センター)

定員300名 (定員になり次第発売を停止します。早めに申込みください)

参加券

1000円

学生・障がい者

500円



【申し込み・連絡先】TEL&FAX052-712-0706(名古屋哲学セミナー事務局)

【メール】nagotetu@nifty.com 【振込先】郵便振込口座00840-4-27372「名古屋哲学セミナー」